

第 18 回環境情報科学センター賞 受賞者

特別賞

受賞者：名古屋産業大学環境教育研究プロジェクト

**対象業績：地域の CO₂ 濃度調査に基づく環境教育の実践と
国際貢献**



【受賞理由】

本件については、まず学術、環境教育及び国際協力の各面から評価を行った。

学術面では、人為的な地域的影響を受けた非バックグラウンドデータに注目して、その規則性を明らかにすることによって、地域環境の違いによる CO₂ 濃度の地域的差異を検証することを目的として、環境情報科学への投稿等が行われている。投稿論文等については、CO₂ 濃度変化の原因の解析等今後の研究の進展を待たなければならない面があるものの、地球温暖化に関する重要な環境情報である、CO₂ 濃度の時間的な変動・季節的な変動を微視的に把握して地域特性との関連性について微視的な解析を行っており評価できる。

環境教育面では、研究成果を生かして、東海 3 県を中心とする全国の小・中・高校の多数の児童・生徒や学校教員等に対して、実践、研修を行うとともに、基盤としての CO₂ 測定局を 13 局開設してきた。また、これらの教材研究の成果として「みんなで作る CO₂ 濃度マップ～地球温暖化と私たちの暮らし」(2009) をまとめており、多年にわたって優れた教育を実施してきた。

さらに、国際貢献としても、2013 年から台湾の小・中・高校で約 900 人の児童、生徒、300 人の指導者に研修を行うとともに、測定局を 4 局開設する等の活動を行っており、教材書の中国語訳も行われている。また、これらの活動は環境教育研究プロジェクトのスタッフが先導して、各地の高校等教育機関と協力して実施してきたものである。

なお、評価にあたり考慮すべき点として、名古屋産業大学環境教育研究プロジェクトは 2016 年 12 月に環境省主催の、地球温暖化防止活動環境大臣賞(環境教育部門地域の CO₂ 濃度調査に基づく環境教育プログラムの開発と実践)を受賞していることがある。その受賞理由として、環境教育プログラムの開発、台湾を含む小・中・高校での実践、教材研究の成果の出版及び指導者養成研修の実施が上げられている。このため、今回の特別賞対象としては、環境大臣賞受賞後の活動も含めて評価した結果として選定することが望ましいと考えられるが、該当するものとしては、環境情報科学等への投稿及び台湾の基隆(きりゅう)市での環境教育の開始等があり、受賞後も着実に活動を継続、発展させている。

以上から、近年の国際貢献と長年にわたる国内における環境教育の継続的な実践、及び環境情報科学への投稿等研究の成果を総合的、包括的に捉えれば、特別賞対象としてふさわしいものであると評価できる。